

壹岐名勝圖誌

川社

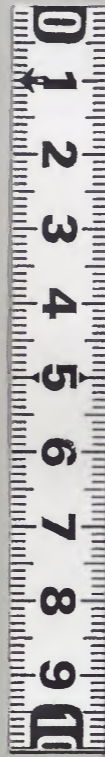
三

和書門	二九三九九	二二六	二五
類	號	函	架
冊	架	函	架

和書	二九三九九	二五	七
類	號	函	冊
冊	架	函	架

内閣文庫		
番號	和	29399
冊數	25 (3)	
函號	176	166

内一〇六
地六六



壹政名勝圖卷之三

壹政郡川北村之部



川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部...

川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部...

川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部...

川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部...

川北村東向地... 壹政郡川北村之部... 川北村東向地... 壹政郡川北村之部...



壹岐名勝圖誌卷之三

壹岐郡川北村之部

丙一一〇六八號



東ハ諸吉村小界巽ハ海に限り南ハ深江小界坤ハ池田小
村界申酉戌ハ湯井小界乾ハ中之郷界小限リ子丑寅ハ又諸
吉界に東西諸吉界推木川十貳町拾壹間半南北南深江
西湯岳界神石

云川北村東向地狹土地中北風當稻粟大小交蕎麥木

綿中小豆稗辛子下云○續風土記小村ヲ川北ト名

付タル故ハ田川の北ハ巧ク所の村ヲ云ハテ川北ト

ハ正説ヲ云ハルカト志スヤリ○今考ルニ田川郷ハ

深江川北諸吉ヲ云テ称スルモ風土記ハ然リ時ハ

全圖

海



北



此村ハ郷の中らに屬して田川の北とハツシカク一是ハ
村中なる田川と云流源南より出て北に流るるれハ
むうハ北川村中といハツシカク中葉より川北と改
めハ云説もつとハ是を正しきやうと思はるる所
ト此考へもあはるるれ不疑ハツシカク今社を里の
名七

東

下

迎坂

本村

屋坂

西目

切方

水田古新合三拾三町九反九畝八歩

高七百貳十貳石四升五合

火田古新合三拾八町三反貳畝七歩

高貳百七拾八石貳斗四升八合

民戸 一百八烟

口員 四百拾人 内男貳百十八人 内女一百九十二人

神社 三十二社 内寺社本社 貳社

佛閣 九所 内四所寺院

堤 四ヶ所

庄屋 建村中少北 南向

金高院園

庄屋の向ふより此所に二の塚あり一ハ午未向ふして石塔

下建たを仇川越前守を葬せし所と云ふ傳へる
今一法ハ石塔も無く標の松一株立り 株のちさき
六尺或寸 二塚相去

二ヶ各之間村老傳云仇川越前ハ西屋敷といふ居し人
なり滅後此園ハ葬今に例歳七月八日村より祭す

同十日ハ西屋敷よりまゐる同十日ハ馬場屋敷より

祭す云々○壹波廻云元法院庄屋の近所なり仇川

越前守忠則の位牌なり此人ハ大塔宮護良親王の弟

一の臣なり宮薨後祭三河守殿へ御願あり祭殿より

當國へ流きたるなり此越前守の廟所あり今の庄

屋の向の山なり金高院といふ其妻の墓もあり

妻の暇小なり水に没して死す其墓庄屋の近辺の田乃

巡りあり此人子孫なり年歴を考ふ建武三年護良

親王ハ録倉小なり直義のたぬ薨し孫ハ享保二十年より

て四百年ニ 大塔宮尊雲親王と
波多三河守時代不合

矢保仇祠 在迎坂

尾祠 東向

迎坂里 人家あり

經供養 道傍小ありびり一字一石の法華經を納り所と云

廣嚴山長泉禪寺 元名長福寺 在東

本尊地藏大士座像長七寸六分

客殿

午未向

桁四間
梁三間半

茅葺

廊下

桁三間半
梁三間

瓦葺

庫裡

三間半方

瓦葺

境内

東西一百五十三間南北二十間
周圍三百二十三間

内寺地
東西十二間五尺
南北十間半

觀音堂

在境内

順礼第四番本尊立像長七寸五分藥師立像長五尺三寸

昭士日光月光各立像長貳尺四寸五分

堂

東向

桁八尺
梁三間

瓦葺

當寺ハ安國寺未泐なり○梵刹帳云川北村長福寺建

立年數不知安國寺未寺以來三百年○田清帳云田貳及

三步高四石八斗合長福寺之文龜年中無言納和尚

開基三三一一

乙子大明神

在東古木

祭神豐斟淳尊

石祠

戌亥向

境内

東西廿三間半南北廿五間余
周圍一百二十間

地神

在四川

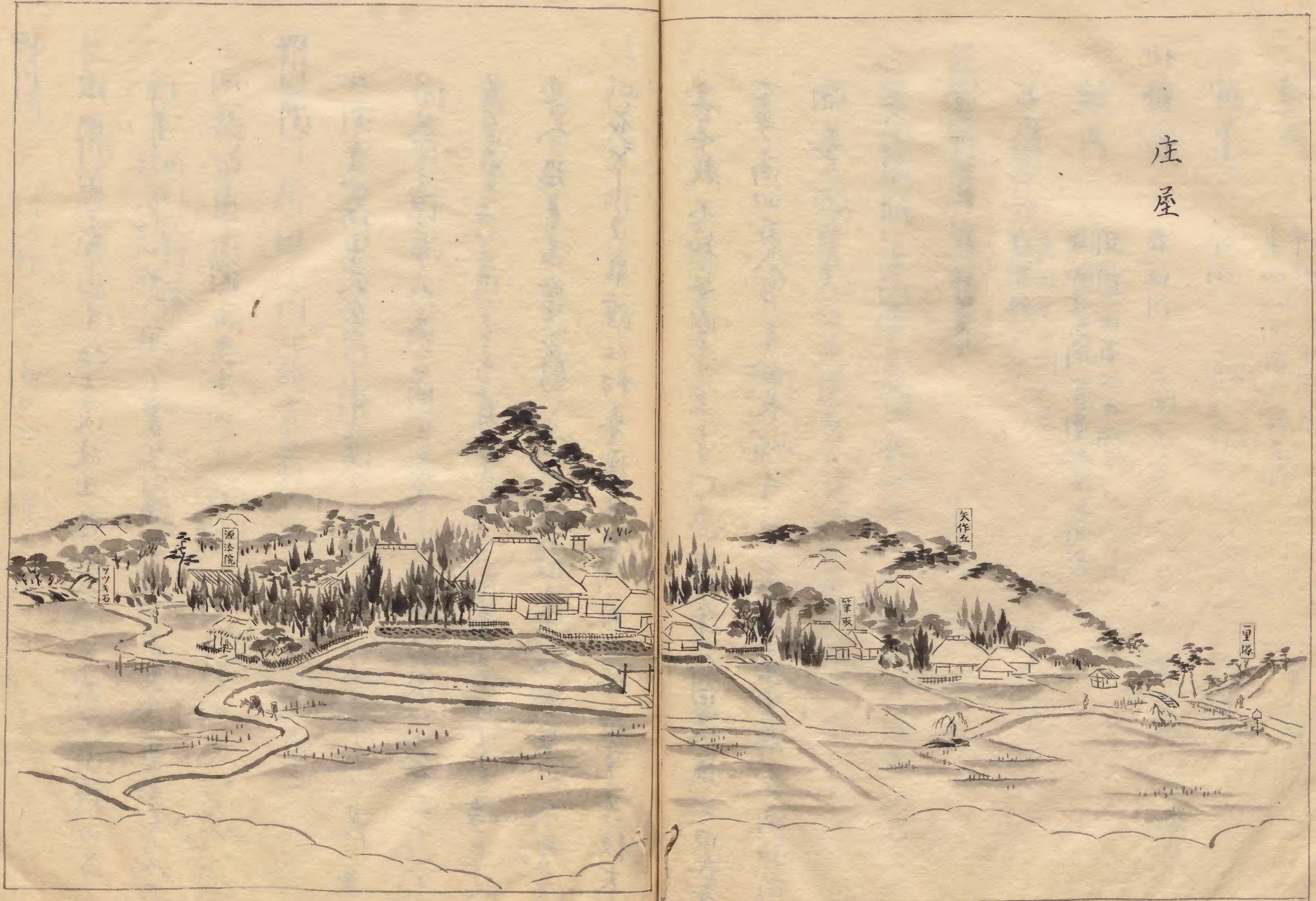
神尔玉

申向

境内

東西八間南北拾三間
周圍三十間

庄屋



四 川

源四川田より出て北に流故不既不いつらうたうく村の名と
ませしまん十六間なるは川神祭場不至り其より八十
間ありきて淵不至り

四 川 淵

此淵方四間を尺余にして深さを礼をとみ未より丑に漲
つと落る瀑布の高三間余ありて其下の水は土石の下で
くらくと上を流きを森繁茂して晝中しくも暗く故
小人恐きて常不往を里俗云むく此淵の辺不あるは
此石よりく深江村安國寺の門前の橋より其後奉

行人の折不折く河童あり或は石垣を崩すくもこの
音をれく或は大勢の人声で物く或は驗者不託くを
其石をかへんくとをく之此淵の下より二百九十二
間入余ありれ椎木川橋不至り其より三百六十間余
ありと長田濱より海不入

椎木川新田 川北諸吉西村不属を

此新田周圍六百七十間半 内川北濱長 或六百五十乃 討疆長一百或十八

間半 内川北討疆 長六十八間 兼中築崎利九門く築く所なり

長田濱 此濱不節のくくもき白り故不名くなり

神崎 村の卯辰の海辺の土崎なり

一の瀬

海岸と云ふは十八間本社石鳥居と
去りて一千一百六十間半

古傳云日吉山王

兵主神社
旧称あり

京都より當州此所に着

御し給ふ

故此所を
神の崎と云

時一の瀬に生きたる所の海鹿尾二

莖より七羽の生きたる御酒をまきし其根を捨

給ふより今此瀬に生きたる毎歳九月三日未明に産人

二人海中に降りて海鹿尾二莖をもちて社頭を奉ると

又昔時の龍蹄石面あり又木履の齒形三つ石面あり

故に土俗此石を登ると縁をむくまて此瀬よりかつて

海鹿尾生きたるかかく此一の瀬よりかかると云ふ

二莖を生きたるて実神妙なりなり

鏡島

一瀬本

此島四畝あり傳云日吉の神神の崎に著御せ給ひし時御

鏡と此所を脱せ給ふ故時の人名つけて然りて人志

かより干今例年九月廿日祭禮の日早且國主の代

参光神崎に至り瀬干より去り社多あり其時

神社の権櫃を持ちたりて島中を去る

但し弓矢殿後園
笠幣帛神を係

御手水井

下浦の上に清水あり

此井堅式間口大横又尺又寸深三尺水中を人又寸水ハ子丑

より出く午未と流るゝいかに干魃も減くを実なり

霊水なりむかひ日吉山王神崎よりあかき給ふ時は井

矢作丘
四川淵
地藏坂

矢作丘



地藏石

フキ

水光御手を注し給ひしよりかくら石付たるをいひ傳

ふ

下浦

中昔ハ氏家ありしを熱心紙寛文中郷の浦に移
すやうくく被浦の部下ふり至し

腰掛石 下浦田の傍ふあり

むし 兵主神社の大神志しやまを給ひしを故
名とす

山神祠 在下浦 去社可一千二百余間

瓦祠 戌亥向 祿十二夷

境内 東西二間余 南北三間余

碓大明神 在下浦碓本

祭神 少童命

神聖 松一株生せり

魂神 在門浦西

祭神 生魂命 足魂命

瓦祠 未申向

境内 東西五十間 南北十間余 周圍七十九間

一云當社よりハ深江の若宮間ふりて御して金城と
芦辺和布洲の間ふり給ふ為に往來の船帆をさけし

下浦



此ハカラスノ寺ヲ遷リ故ノ今ノ地ニ移リタリトモ
例祭十月十日をムノ田ト云フヨリ神供ヲ調進シテ祭
ムル

蔵王社 在迎坂下浦

祭神倉稻魂命稚産靈命

石祠 辰向

境内 東西二間半余南北二間
周圍二十間半

阿陀院堂 在本村貝畠 堂主長泉寺

本尊座像長七尺八寸二分

堂 辰己向 桁三間半 梁二間

茅葺

寄畠 五畝

地藏堂 在東出口 同上

本尊座像長八寸

堂 己午向 桁八尺 梁三間

茅葺

寄畠 五畝十五步

當堂ハ枕剝帳云川北村古水地藏堂菴号地福庵云

日枝尾 一名冠丘 属村巽

此尾東西二百八十四間二尺南北二百七間二尺又寸周圍一千二

百九十間半高二百十六間二尺 頂上ノ古老説云當社神

ノ崎ヨリ此尾ノ場ヲ世給ヒテ御冠ヲ脱キタリ給化



一石之妙今不存故冠丘之石又云江國日
 校山より降臨し終ふより日枝尾の石

冠石 ^{カッリ} 烏帽子石と云 日枝丘あり

稻荷祠 在迎坂

石祠 寅向 去本社七百十二間余

海瀧山正法院 在迎坂

本尊釈迦如来坐像長八寸貳分

客殿 辰己向 桁二間 梁二間半

廊下 吉間方

庫裡 子向 桁二間半 梁二間半

瓦葺

瓦葺

茅葺

境内

東西七十武間南北六十間
周圍三百九十七間

内寺地東西十二間
南北八間二尺

當院ハ安國寺末汎云々して天安年中鉄玄和尚の創基

廟川

屬南

此井六尺又寸方深四尺又寸水中を尺八寸寅の方岸の下に
横穴あり入き丈九尺又寸其穴より水出南にたゞる干魁
あり喊らるる村中才二の石水なり名義不詳下の谷を
も廟の久保と云ふ

要石

廟井より良の方九間余及傍あり

此石九石二川重なり其上石方三尺又寸斗り高き丈又寸下

石高き丈又寸大方上の石れ太きも如くより廟と云名り

よりして名付たる石なる也

軍場イリサハ

嘉曆古城の築方と云

此所ハ石塚あり周圍八間をえ
高六尺余上に標の石塔あり高三尺分

又歩誰人の塚と云事不詳也一ハ城至の古墳也也

觀音堂

在屋取

堂主大室院

本尊十一面立像長七寸五分阿彌陀坐像長七寸五分

堂

午向

桁二間
梁九尺

葺葺

境内

東西三間半
南北又間

地藏堂旧地 在屋坂西原

當堂六梵刹帳云西原地藏堂座像長八寸畠三畝延命
寺持と云るに所より元禄年中八幡浦に移すと云今旧
地少くも云

矢保九祠 在屋坂

石祠 己向

境内 東西三間南北三間余
周圍十二間余

樋口殿塚 街道の傍畠中にあり

松木田塘 属入作免

此池中葉中へ二口相並へり故に世俗に女界堤といふ

已然と云近世間を堀切て一法不をせり今封疆長一百二十
四間横八間水溜云及入作免田原免の水田拾三所三及高
式百四十六石小かゝる用水なり新多一 新免の圖
下に出す

下田塘 一名神田川

封疆長亦三間横六間水溜云及六畝田原免水田四所云及
高八十四石小かゝる用水なり

屋坂里 人家あり

岸嶺古城 一名加曆城也

此城横川北与湯岳嘉曆年中不築一 所と云東西式百十
六間余南北一百七十間余周圍六百九十三間式八子城八湯

岳村小原委——く彼邑の部下に出る
神ノ石峯 属湯岳川北西村

此峯小神石こふ石あり故小名こふ石其石は西より東
面は天七寸南面七尺又寸西面八尺六寸北面八尺七寸周りに
間八尺又寸高八尺又寸其傍小矢保佐神社あり 湯岳村の
東西十六間半南北十二間半周圍は十四間半余邊半湯岳村小
属を川北に少かき

葉廣田塘 属村免

封疆長亦又間横又間水溜き又又畝村免の水田三町又及七
畝高七十五石小かき水なり

観音堂旧地 本村堂山 元東福寺といふ

當堂ハ中葉廢して本尊ハ元法院小寄宿之立像長又
尺七寸

地神 在本村帯田

神玺 午未向

境内 東西六間 南北六間

正一位兵主神社 在京徳山村中の産神ニ
例祭九月亦又日

祭神大己貴神

御殿 己午向 桁二間半余 庇縁周三方掃骨

上屋 桁三間又寸 梁三間六寸 茅葺

祝詞屋

桁を間六寸余
梁を間余

板葺

拜殿

桁三間
梁三間

茅葺

御供殿

兼御輿舎
桁三間式八
梁三間

茅葺

石鳥居

去條殿己午廿七間半
延宝八年丁巳十二月建

境内山

東西八十き間南北八十間
周圍二百に十六間半

馬場

取立六十二間余
横三間

當社ハ元日吉山王と祢奉りて延宝年中式不所載

の壹波郡兵主神社名神にせり土人相傳云む一日吉

大明神比叡山より村の卯辰の海濱一の流し着御ま

由を故時の人其祈を名付て神崎といふ大神一の流

の海鹿尾をいへ給ひて御着ふ用ひ給ひて其根を捨

置給ふ故毎年其流し生を例歲九月廿三日の朝其流し地

を取りて神供とする事今に至りて同一亦濱の上の畠に

到りて鎧を脱給故不鎧圖といふ又すうおやうて井

泉不臨いゆして御手を洗ひ給故其井を名付て御手水

川といふ所より西丘に登り給ひ御冠を脱捨給ふか

則石とせり此今を存る故土人呼て冠石といふ又其尾

尾といふ此尾の既不谷山今の京徳といふ所よりすうて宮

柱大敷立て鎮坐則日吉山王権現に祢奉り○神社

考云可須御勝本聖母大明神を兵主神社といふ西間御河北

日吉山王と聖母大明神とす因て聖母社の石鳥居の額を
日吉山王と納め聖母社と兵主神社の石額を掛たり然るに
延宝九年又石額社号を取替たり勝本聖母社の神功皇后所
祭にして此津三韓退治の御往來御着岸此地なり此夏世
人の老る所なり然るに聖母の石額を日吉山王と納むべき
故なり日吉山王大宮ハ大己貴命ありて兵主神社とすに
地あり畧○神名記云川北村兵主神社三所大己貴命素盞
鳴尊事代主神之此神と山王権現といふ事あり

○秀正云中葉日吉山王七社と称するハ近江國滋賀郡日枝
山小宮を祈の大宮 大己 二宮 國常 聖真子 八王子 國狭楯

客神 菊理 十禪師 瓊々 三宮 豊國 大行事 高木 早尾 猿田毘

下八王子 王子宮 鍵御 聖女 下照 氣比 仲小 禪師 愚王子 新

行事 澳津 石瀧 媛 釵宮 神 牛尊 若宮 護 因等 の 寸一

社を祭り奉るなり 以上

古來鎮坐年歴不知永禄十年 丁卯四月 御殿造 菅棟札
小當社山王三七社 松浦肥前守 源隆信 押字 松浦源三郎
鎮信 押字あり 慶長八年 癸卯四月 宝殿造 菅棟札あり
文曰 日吉山王三七社 鎮護國家 灵場也 松浦式部 郷法
印 宗静 押字 同 又 九門 尉 信実 花押 同 亦 年 寛永 十 五
年 義應 元 年 寛文 十 年 造 替 棟 札 あり といふ 事 何

兵主神社



是も日吉山王三七社に志す所なり安永四年の棟札に始
て兵主神社との事凡の時不國主源成朝臣なり

神位の事

文徳天皇仁壽元年辛未春正月庚子正六位上と授奉ら
る 清和天皇貞觀元年己卯春正月廿七日従五位上と授奉
らる 朱雀院天慶三年庚子一階と増し奉らる
白河天皇永保元年辛酉春三月同日一階と増し奉ら
る 崇徳院永治元年辛酉秋七月一階と増し奉らる
高倉院治養四年庚子冬十一月同日一階と増し奉ら
る 後鳥羽院元暦二年乙巳春三月同日一階と増

し奉らる平家追討の御祈ふよりなり 中御門院正徳

五年乙未秋七月十三日宗源宣旨の極位と授奉らる其宣
旨文曰

宗源宣旨

正一位兵主神社 壹岐嶋壹岐郡
川北村

右奉授極位者

神宣之啓状如件

正徳五年七月十三日 神部伊岐宿禰 奉

神祇道嶺勾當長上従二位下部朝兼敬

又祝詞曰

維正徳五歳次乙未七月十三日 丙午吉日良辰乎擇定五壹
岐島壹岐郡川北村仁鎮坐須臾畏先正一位兵主神
社未社諸神乃廣前尔恐恙恐恙乞申賜彼久止申 仇久
抑當社乃祠官氏子等合力一心志互神祇管領卜部兼
敬仁告互正一位乃神位乎乞故例仁任互宗源乃神勅宣
乎以互極位乎奉授利宇津乃幣帛乎調互内陣乎飭称
辞竟奉留此状乎平久安久所聞食互弥一天恭平
社頭康栄神道奥隆祠官氏子等平安乎始互五穀能
成萬民豊樂仁夜乃守日乃守護幸賜 陪止 恐恙恐恙
乞申賜 彼久止申壽

右二通管小納大和錦以て管と張長き尺貳寸五分横貳寸九
分深さ貳寸足の高さを寸九歩

幣帛を奉 串長二尺五寸紙を奉書 管小納其箱長さ貳尺

六寸を分横五寸深さ四寸四分足の高さを寸九分赤塗住

連を引周らるる 四寸 蓋表銘云

正一位兵主神社幣帛

同蓋裏銘云

正徳五年七月十三日

神祇管領兼敬

かくして上と木綿の四組のお総たしてむま

右の神位ハ國主原棟朝臣より奉納せらるる所なりて同

年十二月十三日平戸より立石大炊をのりて宗源宣

旨及以幣帛奉納あり國司名代小倉孫之丞其視式糸
礼の

宝物

神代古傳御幡

筭蓋表銘云

川北村宗廟

兵主神社奉納神代古傳御幡二筭

元禄四年二月
二月吉曜日

同裏書

源氏任

御矛二本

身長三尺九寸
錦吹流附

是、宝永四年十月廿六日源棟朝臣寄附せし亀園城新

造にありてあり其告文曰

壹岐國壹岐郡河北村

兵主神社者邦土安鎮之靈廟自上世以降所倚頼

崇信也粵平戸龜園之城域者前肥前太守李部法

印宗静鎮信所肇基而半途輟矣時哉有時

元禄癸未之春奏請干公朝冀構厥遺址乃某

蒙允許辱義祖業之志不可不續之釣命越若来

宝永甲申之春版築資始城壁屋宇要害之制逮今

歲冬大略備矣於是日月吉祥遷自舊館登于新營

此蓋神靈之光烈以垂庇佑也敬疏少概敢昭摠報

賽之由因奉献公鉞二本今日之祝詞拜以告之尚鄉食

宝永四曆歲次丁亥黃鐘二十有六日

朝散大夫壹列收宰兼知肥前列源姓松浦氏棟

御戸張

赤地金襴
文葉菊

棟君奉納なり

木鏡

一面

石額 一隻

延宝四年六月一日
鎮信朝臣寄附

古老云當社むかしの神寄鎧畠小神幸ありしとき
享保九年甲辰御輿再與ありてより例歲九月廿四日
夜太神樂廿五日國主代參社詣あり其式先騎馬小
て神崎小至り一の瀬小下りて潮をこり身を清免
直小社參奉幣規式ありて島田堤小神幸なりしとき
住吉祠 在境内

石祠 己午向

祇園祠 日上

石祠 己午向

當社ハ寛文十二壬子年村中より勧請せし所なり

荒人祠 日所

祭神大己貴神なり

石祠 己午向

八幡祠 日所

大東社 在境内本社東

祭神大山祇神蘇山祇命志幾山祇命野槌命之

尾祠 己午向

神明社 口上

祭神天照太神乎刀雄命万幡豊秋津姬命天忍骨尊

伊弉册尊

小祠 己午向

板首

上屋

六尺五寸方

茅葺

当社ハ寛文四甲辰年村中より勧請を以て新社を
小のとも所なり

七社 在境内

祭神大山咋命国常立尊誉田尊国狭槌尊兼理媛命

瓊々杵尊豊斟淳尊也

稻荷社 在境内鳥居東

小祠 己午向

当社ハ元文中毎村鎮坐の其一社なり

庚申 口所

京徳河 一名花川

上の井方四尺下の井綴二間横を間民人云ひハ水標木を
立故月水の婦女此水と不汲いし

京徳山

ひハ京徳甫休大宝の三氏比叡山より日吉大神の供奉也

して此地小妻王各社家より則京徳氏の居りはなり○
或説云京徳の苗裔ハ平田氏にして南休の苗裔ハ大川氏に

地神 在榎木

神靈榎木なり

境内 周圍十口間余

拂久城址 北面

此城東西一百九十六間 東京徳山より南北一百四十三間余 南平
西六冬越路より

水川上路より 周圍五百九十四間 腰より 高一百七十六間余 頂より六
支田上より

絶頂小大松一株あり株のちさ武大枝葉四方小葉へて東西十
四間南北十二間高九八間斗りあり何れの世誰人の居たりや

傳へたりはたききり

平田山 属本村

中世日吉社司平田氏の住居一旧地あり故小名せり

廣田社 在平田山 例祭十月十日

祭神瀬織津比賣命

石祠 己向

境内 周圍一百十間

貴布祢社 在木舟 例祭九月廿四日

石祠 己午向

境内 東西十四間余南北十二間半 周圍四十式間半



神石山

嘉曆城址

女男塘
鮎取

大母山大宝禅院

在本村

本尊聖觀音坐像長九寸七分 唐金佛地蔵立像長壹尺三寸九步

客殿

南向

桁四間五寸
梁三間二尺七寸五分

茅葺

廊下

桁九尺
梁三間

瓦葺

庫裡

桁二間半
梁三間

茅葺

境内

東西六十四間南北一百間
周圍二百七十九間

内寺地

東西十八間
南北十間

當院ハ安國寺末流なり建立年歴不知開基祥山瑞和尚○
寺居帳云川北村大宝院屋敷一所右者先年寺領者所云々

只今屋敷一所云々○田清帳云水田云々及式畝三步高二石三斗
三升七合大宝院

什物

元和三年十二月廿八日知行四石三斗九升貳合隆信朝臣の寄附
状ありしに云々寛永二年十二月以來知行四計六斗三升

藥師堂

在境内

本尊坐像長二尺七寸八步

堂

東向

九尺方

茅葺

寄畠云々

五社大明神 在境内

旧地山中にあり境内周圍十間余

祭神 栲幡千千媛命 豊玉姬命

石祠 東向

当社ハ神社帳ハ平田五社大明神古来勸請年數不知と志す以
以り

彦山神社 在拂久

祭神 伊弉諾尊 伊弉册尊 吾勝尊 速玉男命 事解男命

北山大神 あり

石祠 己午向 去本社鳥居西一百五十六間

境内 東西二十間余南北三十九間余
周圍五十九間余

風土記云当社ハ拂久山の中石倉の下に坐 石藏方十間あり大
石東西之間高六尺

元禄四年石祠字建

太神宮 在切方

御灵寶 寅卯向 去本社亥子二百九十之間

境内 東西之間を尺南北六間
周圍十九間

稻生祠 庚申場 日所

切方川

源牛丸堤より出椿并田を経て一百三間流を六支田より

小黒牛川に落合其より三百七十間余東にあり古川

落合より三十四間半なり古川に落合

牛丸塘

属切方

此堤封疆長十間横五間水溜き及三畝村免の水田式所九
及五畝高六十式石小かゝる用水なり

矢保佐祠

在切方牛丸

例祭六月十月十日

祭神大己貴神田心姫命 事代主命

石祠

己午向

境内

東西十一間余南北十間
周圍三十五間

大殿屋敷

属切方

傳云日吉大明神の大官司の居り跡所なり

高尾山

此山川北中の郷諸吉三村の境にして甚高し

高丘と名付し一帯をなす諸吉の部下に出る

あり

高守社

一云八幡宮

在高尾

祭神大山祇命

石祠あり

境内

己午向
周圍三十間

去本社石鳥居六百六十三間余

當社大石九枚肌を合せ御社を築き實小奇なる所あり

石の周り九間又八余あり其中一處近世石祠を新し

建たり

山神祠

一云矢保佐
又云上山神

在切方

祭神大山祇命

境内 周圍五十間余

山神 祢下山神 月上

祭神大山祇命野槌命倉稻魂命之

石祠 巽向

境内 東西十間二尺南北九間五尺余
周圍三十六間

阿弥陀堂 在切方

堂主大宝院

本尊坐像長三尺七分

堂 南向 桁二間半 梁二間

境内 東西七間半南北三十間半
内堂地方四間

寄畑寺

社大明神 在切方神石

祭神大己貴神

瓦祠 己午向

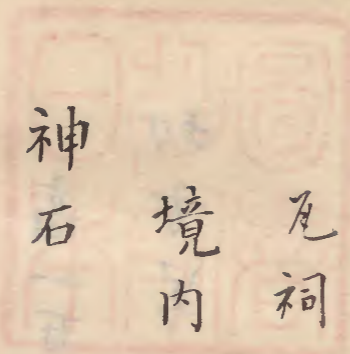
境内 東西十四間半南北十間
周圍四十五間

神石 月所 去社大明神末四間半畠中ふあり

此石縦三尺七寸横二尺六寸周圍三尺五寸高三尺六寸
但土 常に石のあつりに不浄を好み能人の忌む所之

射辻山 去矢作尾北三町余 扁切方

其地 東西一百七拾間余南北四十間周圍三百七十五間古

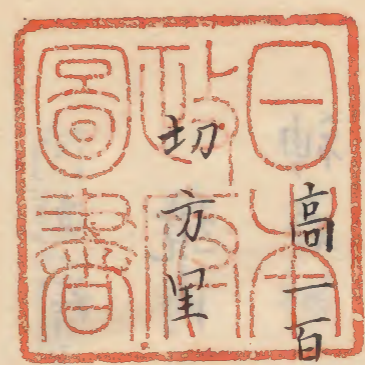


老傳云日吉大神矢作尾あり矢作ハキ北ハキ向ハキ以ハキて射放

其尾たる東ハキ南北ハキ一ハキ百ハキ七ハキ十ハキ五ハキ間ハキ周ハキ圍ハキ九ハキ百ハキ八ハキ十ハキ間

矢作尾 屬切方

其尾たる東ハキ南北ハキ一ハキ百ハキ七ハキ十ハキ五ハキ間ハキ周ハキ圍ハキ九ハキ百ハキ八ハキ十ハキ間



家名多し庫名物蒲上座



淡路縣大正... 淡路縣大正... 淡路縣大正...

老傳云日言大神其作是五之天可傳北山而山神歌

有今人其天以春留之而三枚其為身之射述之六

大物也 萬切方

其尾乃東 南北二百七十五回周對九百八十回



一箇 二十 國 上 五 六 九



